令和7年度第2回

寝屋川市子ども読書活動推進計画策定委員会 会議報告

○開催日時 令和7年8月22日(金) 午前10時00分より

○開催場所 寝屋川市役所議会棟 4階 第1委員会室

○所要時間 10:00~12:00

○出席者(委員) 15名中 13名出席

尾﨑(委員長)・亀井(副委員長)・川邊、蔵本・九條

浅田・勝浦・木村・岡・坂本・古田・岡元・山本

(事務局) 柴田中央図書館副係長・西岡・塩川

(3名)

(傍聴者) 1名

○案件

- 1.地域・学校園等での読書活動の取組について
- 2. 第4次寝屋川市子ども読書活動推進計画(素案)について
- 3. その他

○資料

- 1.次第
- 2. 第4次寝屋川市子ども読書活動推進計画 (素案)
- 3.報告

素案	家庭・地域における推進
(第1節)	
(37 1 46)	◇主な取組 (5)
	図書館への来館が困難な方々が移動図書館や配送事業などを
	利用していただけるように、民生委員・児童委員(地域住民
	の立場で、生活に関する困りごとの相談や支援を行うボラン
	ティア)に対し、図書館サービスの周知を行いました。
	◇検証 (5)
	図書館サービスについて、広報等による当事者への周知だけ
	でなく、民生委員・児童委員等の地域の支援者などへの周
	知・啓発も、継続して行っていく必要があります。
質問	①配送事業とはどのような取組か
	②民生委員・児童委員へどのような図書館サービスを周知し
	たのか
	 ③民生委員・児童委員が図書館サービスの周知対象である理
	曲
 回答	①郵便局を利用して貸出・返却を行う事業である。
	②サービスを周知したい人に届きづらいため、350人(校区毎
	に 10 人) いる委員=つなぐ支援者に説明した。
	②民生委員は一人暮らしの世帯、児童委員は乳幼児のいる世
	帯へつなぐ支援者となるため。
	※即日に効果があるわけではないが、民生委員や児童委員に
	知っておいてもらえると、今後、必要な人にサービスが届く
	ことが期待される。

素案	図書館における推進
(第1節)	
	◇主な取組(6)
	講座や行事等の参加で中央図書館に来館された方に対し、図
	書館の利用方法等を含めた、図書館見学を実施しました。
	◇検証(6)
	図書館非利用者の利用促進を図るため、図書館の利用方法を
	含めた図書館見学は効果的な取組であり、継続していくこと
	が必要です。
 質問	①おとどけ Books 事業の事業内容と実績
	②学校司書と連携した学校図書館図書配送事業の内容と実績
 回答	①学校から配布のタブレットを使って個人予約した本を図書
	館が準備して毎週、学校へ届ける(実績の集約はしている)。
	②テーマ毎に 100 冊~200 冊を 1 セットとしたものを毎月、順
	番に学校へシルバー人材に委託して配送している。学校に無
	い本に触れてもらえる。学校毎に利用方法を工夫して子ども
	の手に届けられている。
	(読むのみで貸出を行わない場合もあり、数値的な実績の集
	約はない。)
	第3次計画の検証として、提示できるものについては概数程
	度でも数値を出せれば PR につながる側面もあるのではない
	か。事務局は、実績や定量的にわかる資料の記載について検
	討すること。

素案	幼稚園・保育所園・認定こども園・子育て支援センター・学
(第2節)	校等における推進(学校)
	◇主な取組 (1)
	各校の司書教諭と学校司書が連携を行い読書活動の推進に努
	めました
	◇検証 (1)
	司書教諭と学校司書が連携しながら、児童生徒の読書活動に
	継続的に取り組めています。
質問	「読書活動」について、環境整備や具体的な取組内容を記載
	してはどうか。
回答	ビブリオバトル等を記載する。
	◇主な取組(9)
	中央図書館と連携し、各校において読書活動(ブックトー
	ク、絵の本のひろば等)を実施しました。
	◇検証 (9) (10)
	各校において、読書推進に取り組んでいますが、引き続き、
	継続した読書活動や児童生徒の興味を高める取組などを通じ
	て、読書活動を推進していくことが必要です。
質問	「絵の本ひろば」は支援学校へ行っているが、支援学級へ行
	っているか。
回答	支援学級を対象としては実施していない。普通学級での実施
	時に支援学級の児童生徒も含んでいる。

素案	障害のある子どもや外国人の子ども等への取組
(第3節)	
	◇主な取組(2)
	支援学校で絵の本のひろばを開催し、本に触れる機会の創出
	を図りました。
	◇検証 (2)
	「絵の本のひろば」の開催により、図書館への来館が困難な
	方への読書支援が図れています。
質問	支援学校での取組はあるが、支援学級対象の取組はあるか
回答	支援学校への突出した取組はなく、図書館の見学時に拡大読
	書器等があることを説明している。
提案	第4次計画では、支援学級とどのような連携が取れるのかを
	考えていく必要があるのではないか。
	◇検証(4)(5)
	多言語で書かれた本については、図書館での展示すること
	や、今度も関係機関と連携した行事に取り組むなど、引き続
	き、市民の関心を高めるために、様々な媒体を通じて周知啓
	発を図っていく必要があります。
質問	①外国人の利用者はいるか。どのような対応をしているか。
	②外国人の子どもが図書館を利用できているか。どのように
	利用方法を知らせているか。
回答	①外国人への図書貸出方法等を伝えることは難しく、今後の
	課題である。
	②外国語で書いた利用案内等はないが、資料があることは周
	知している。
提案	多言語の本の展示のみでは充分とはいえず、図書館を利用す
	るきっかけとなるサービスが必要ではないか。第3次計画の
	検証結果、第4次計画の課題として記載してはどうか。